

## 薬剤科紹介

薬剤科長 柴田 直子

平成 30 年 4 月に粒子線医療センターに赴任してから早 3 年目となり、その間薬剤師として多くの患者さんに関わらせて頂き貴重な経験をさせてもらっています。

赴任当初に比べ抗癌剤を併用した粒子線治療を行うケースが増加しており、薬剤師の役割の大切さを日々実感しております。また社会の高齢化がすすむ中、循環器疾患や内分泌疾患等全身管理の必要な合併症のある患者さんが年々増加し、粒子線治療を安全かつ円滑に行うためには、入院治療目的以外の疾患に対する薬学的なサポートも非常に重要になっています。特に放射線単科である当センターでは、薬剤師の積極的な薬物支援が期待されていることを肌で感じています。

そのような状況のなか、薬剤科の役割として「粒子線治療を安全に予定通り最後まで受けていただくことを薬の面からサポートする」ことを理念としています。

薬剤科は現在、常勤薬剤師 2 名と事務員 1 名が所属しており、医薬品に関する業務を多岐に渡って行っています。今回、薬剤科の主な業務について紹介します。

### 【調剤業務】

当院で処方される薬についてはすべて院内調剤を行っております。正確な調剤が実施できるようマニュアル整備と遵守を徹底するとともに、処方監査が適正に行われているか確認するための処方監査システムや、調剤時の取り間違いを防ぐための計数調剤監査システムを活用する等医療事故防止に努めています。

### 【病棟薬剤業務、薬剤管理指導業務】

平成 24 年に薬剤師が 2 名体制になり病棟薬剤業務を開始しました。薬剤師 2 名で入院患者さんが安全に粒子線治療を完遂するため、薬の面からのサポートを行っています。入院時には薬剤師が初回面談を行い、持参薬を調査し服用状況の確認、アレルギーや副作用発現既往の有無等を確認しています。入院中は治療中に生じた有害事象に対する薬物治療や合併症の薬物治療を医師、看護師と連携しながらすすめています。当院では入院期間が長期になることが多く、その間の持参薬についての薬学的管理や代替薬の提案等も積極的に行っています。

### 【チーム医療への参加】

感染、口腔ケア、皮膚ケア等の医療チーム活動へ積極的に参加しています。

感染分野では、昨年度抗菌化学療法専門薬剤師 1 名が誕生しました。院内の抗菌薬治療に対し、TDM 処方解析や抗菌薬の適正使用について医師と相談しながら実施していますが、更に抗菌薬治療の適正化のためレベルアップを図って行きます。

また週 1 回の緩和ケアカンファレンスに参加し、多職種のスタッフとともに緩和治療の方針を検討しています。特に粒子線治療は一定の姿勢保持が必要であり、疼痛コントロールが重要です。そのため鎮痛薬や指示薬等提案を積極的に行っています。

### 【抗癌剤管理業務】

安全かつ効果的な抗癌剤治療をサポートするための薬学的医管理を行っています。特に最近では、頭頸部癌や膀胱癌等において粒子線と併用する全身治療を実施しており副作用マネジメントが重要となっています。投与スケジュールに従った抗癌剤のレジメン処方チェックと無菌調製を実施し、投与後は副作用の発現状況を確認、必要に応じ医師に指示薬等の処方提案を行っています。

また、がん化学療法委員会の事務局として院内全体の抗癌剤治療の適正化、統一化を図るとともに、スタッフへの教育を行っています。

### 【医薬品情報提供業務】

常に最新の医薬品情報を提供できるよう ICT を活用した情報収集に努めています。当院は小規模であり、マンパワーには限界があります。そのため 10 の県立病院薬剤部間で構築しているネットワークシステムを積極的に活用することで効率的な医薬品情報収集活動を行っています。そして、収集した情報を整理し、医師、看護師等からの照会に迅速かつ適切に対応できるような体制づくりを心がけています。

薬剤科は少人数ながら業務内容は幅広く、そのため日々がめまぐるしく過ぎていきます。他の医療スタッフと連携・協力しながら、少しでも患者さんによりよい医療が提供できるよう、安全で効果的な薬物治療の実践に努めてまいります。

